

キリスト教教育委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

預言者アモスには次のような表現があります。「正義を洪水のように 恵みの業を大河のように 尽きることなく流れさせよ。」(アモス書5章24節)。正義・恵みをただの川のように、というだけではなく、洪水や大河のように、溢れるほど豊かに流れさせることを求めています。

また、イエス・キリストは以下のように語ったと伝えられています。「祭りが最も盛大に祝われる終りの日に、イエスは立ち上がって大声で言われた。『乾いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。』イエスは、御自分を信じる人々が受けようとしている“霊”について言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、“霊”がまだ降っていなかったからである。」(ヨハネによる福音書7章37-39節)。ここでは「生きた水」は信じる者に与えられる聖霊のメタファー(隠喩)として使用されています。

さらに黙示録における究極的なエルサレムの描写では次のような表現が見られます。「天使はまた、神と子羊の玉座から流れ出て、水晶のように輝く命の水の川をわたしに見せた。川は、都の大通りの中央を流れ、その両岸には命の木があって、年に十二回実を結び、毎月実をみのらせる。そして、その木の葉は諸国の民の病を治す。」(ヨハネの黙示録22章1-2節)。

今日の讃美歌はこの伝統を前提しているようです。「平和、川のように」「喜び、泉のように」「愛、海のように」心に(ある)、と言われているからです。正確に言うと「海」は聖書において常に肯定的な表象とはいえませんが、それは現代的な文脈化の結果だといえるでしょう。[Y. T.]

【聖歌隊と一緒に歌いましょう】

大学礼拝では、学生・教職員の有志による聖歌隊が合唱をします。どなたでも参加できます。毎週礼拝後にオルガン前で練習をします後学期には、クリスマス・コンサートもありますので、積極的にご参加ください。歌ってみたい学生は、本日(毎回)の礼拝後にオルガン前にお越しください。そして礼拝前にもオルガン前で毎週練習しています。一緒に練習しましょう!

【次回の大学礼拝】2018年5月22日(火)10時40分

次回の奨励は、小林昭博先生(宗教主任・循環農学類キリスト教応用倫理学研究室准教授)がご担当くださいます。みなさん、是非ご出席ください。

【前回の大学礼拝】2018年5月8日(火)10時40分

学生 381名 教職員ほか 13名 合計 394名

【大学礼拝週報】 2018年度 第5号(前学期第5号)

2018年5月15日(火) 午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《大学礼拝》

司 式 高橋優子(キリスト教学教員)
奏 楽 佐藤理恵(野幌教会会員)
讃美指導 相原晴伴(循環農学類教員)

前 奏 「さあ、わが心よ、喜びをもって」(ハーセ作曲)

讃美歌 讃美歌(平和、川のように)

聖 書 コリントの信徒への手紙一9章16-17節

祈 り

さん び

酪農学園大学聖歌隊

奨 励

「御言葉と共に〜キリスチャンの証詞」
白石治恵(食と健康学類英語表現・科学英語研究室准教授)

報 告

讃美歌 讃美歌 (Peace Like a River)

後 奏 「麗しき門を開きたまえ」(ヘッセンベルク作曲)

【本日の聖書】コリントの信徒への手紙一9章16-17節

¹⁶もっとも、わたしが福音を告げ知らせても、それはわたしの誇りにはなりません。そうせずにはいられないことだからです。福音を告げ知らせないなら、わたしは不幸なのです。¹⁷自分からそうしているなら、報酬を得るでしょう。しかし、強いられてするなら、それは、ゆだねられている務めなのです。

【聖書における水の表象】

日本は世界的にみても水の豊かな国ですが、清流には良いイメージがあると思います。これが水の乏しい国になると、さらに一層水のイメージが高まります。パレスティナ地方は、完全なさばくではありませんが、降水量は比較的少ないところです。現在のイスラエルは地中海性気候に分類されています。雨季と乾季があり、ワディというものが存在します。ワディとは、「枯れ川」と訳されますが、雨季にのみ流れができる川で、乾季には完全に干上がってしまうものです。

旧約聖書にも新約聖書にも、水のメタファー(隠喩)が多用されます。それは乾燥地帯における水の切実な必要性和関係があると考えられます。